

東北地方 1か月予報

(6月23日から7月22日までの天候見通し)

平成19年6月22日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率がともに40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率が50%、2週目、3~4週目は平年並または高い確率がともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



低い(少ない)

平年並

高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



低い

平年並

高い

<予報の対象期間>

1か月 : 6月23日(土) ~ 7月22日(日)

1週目 : 6月23日(土) ~ 6月29日(金)

2週目 : 6月30日(土) ~ 7月6日(金)

3~4週目 : 7月7日(土) ~ 7月20日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は6月29日

3か月予報：6月25日(月) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	19.7	94.1	168.0	18.1	19.0	20.5
深浦	20.0	136.5	167.4	18.4	19.3	20.8
むつ	18.2	122.1	142.7	16.6	17.5	19.0
八戸	18.7	115.7	155.0	17.0	18.0	19.6
秋田	21.4	181.4	157.2	20.0	20.7	22.2
盛岡	20.5	158.1	131.0	19.0	19.9	21.2
大船渡	19.7	184.9	133.1	18.2	19.1	20.5
宮古	18.5	144.7	130.5	16.9	17.9	19.4
仙台	20.7	178.4	109.3	19.1	20.0	21.5
石巻	20.0	145.1	128.6	18.5	19.4	20.8
山形	21.9	149.9	133.3	20.3	21.3	22.6
新庄	21.0	195.7	132.8	19.6	20.4	21.7
酒田	21.8	193.7	156.1	20.3	21.1	22.5
福島	22.1	159.2	113.3	20.5	21.5	23.0
若松	22.1	173.8	141.8	20.6	21.5	22.9
白河	20.7	202.2	108.3	19.1	20.1	21.6
小名浜	20.6	153.7	126.5	19.2	20.0	21.3

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4 ~ +0.4	86 ~ 112	90 ~ 109
東北日本海側	-0.4 ~ +0.4	84 ~ 113	90 ~ 106
東北太平洋側	-0.4 ~ +0.4	84 ~ 111	89 ~ 112

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6 ~ +0.5	-0.7 ~ +0.6	-0.5 ~ +0.6
東北日本海側	-0.5 ~ +0.6	-0.6 ~ +0.6	-0.5 ~ +0.6
東北太平洋側	-0.7 ~ +0.5	-0.9 ~ +0.6	-0.6 ~ +0.6

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成19年6月22日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(6月23日~7月22日) :

前線や湿った東風の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並または高い確率とともに40%です。

1週目(6月23日~6月29日) :

期間のはじめは晴れの日がありますが、その後は梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。東北日本海側では期間の終わりに晴れの日がある見込みです。

平均気温は高い確率が50%です。

2週目(6月30日~7月6日) :

前線や湿った東風の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並または高い確率とともに40%です。

3~4週目(7月7日~7月20日) :

前線や湿った東風の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

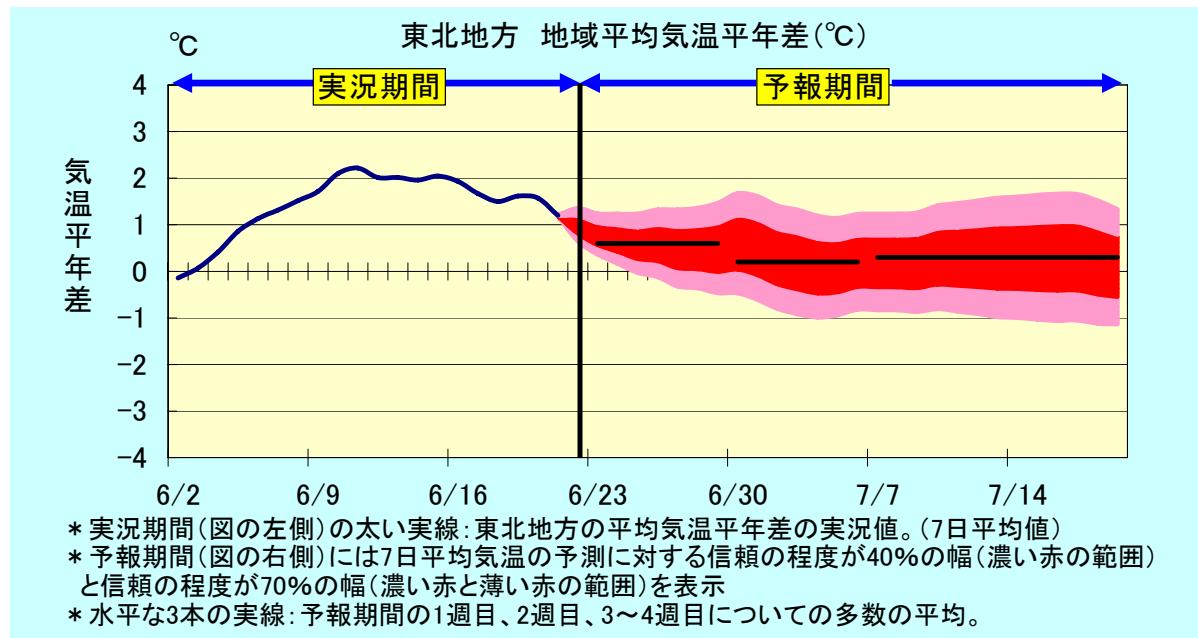
平均気温は平年並または高い確率とともに40%です。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	11.3日	2.7日	2.9日	5.7日
東北太平洋側	9.5日	2.1日	2.5日	4.9日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目は平年を上回る予想となっており、2週目、3~4週目はおおむね平年並の予想となっている。

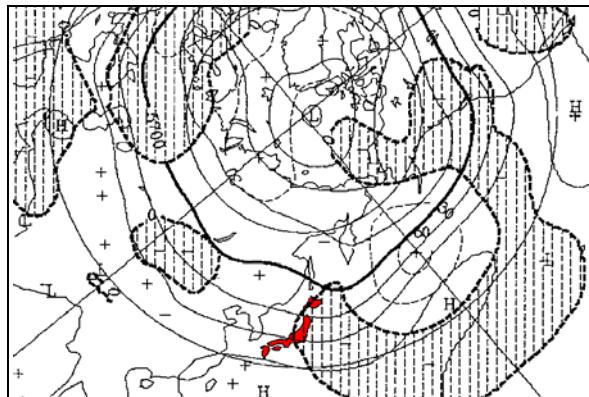


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

1か月平均: 太平洋高気圧は南海上で勢力が強く、南からの湿った気流が入りやすい。このため、気温は高くなりやすく、前線の活動も活発になりやすい。

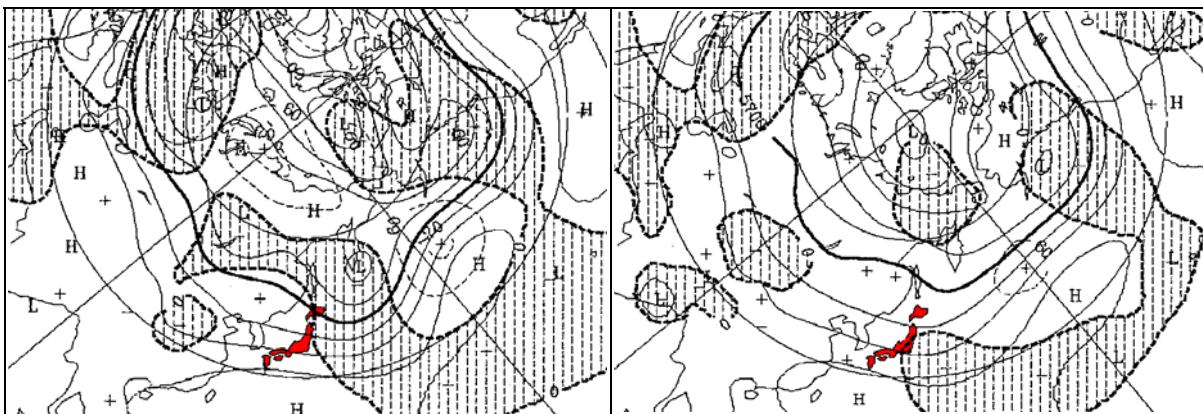
1週目: オホーツク海を中心に日本の東海上にかけて負偏差。オホーツク海高気圧の影響は少ない見込み。太平洋高気圧の勢力は強く、気温は高くなる見込み。

2週目: 太平洋高気圧の勢力は引き続き強い。オホーツク海を中心とした負偏差は解消し、一時的にオホーツク海高気圧の影響を受ける可能性がある。東北地方は前線の影響を受けやすく天気はぐずつく見込み。



1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は30m毎)



1週目平均 500hPa 予想天気図

2週目平均 500hPa 予想天気図

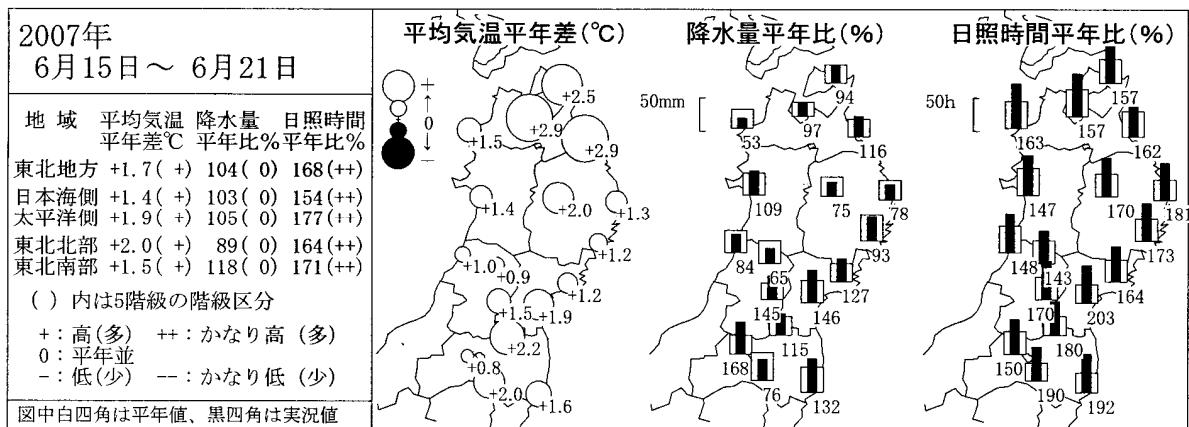
実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (6月15日～6月21日) の天候の経過

この期間、高気圧に覆われて晴れの日が続いた。期間の初めと終わりには低気圧や前線の影響により曇りや雨の日があり、21日には東北全域でまとまった雨となった。また、東北北部・東北南部ともに21日頃に梅雨入りしたと見られる。東北北部は平年より9日遅く、昨年より6日遅い。東北南部は平年より11日遅く、昨年より12日遅い。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方で平年並。日照時間は東北地方でかなり多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）